

紺碧の海

令和8年2月27日 第5号 文責：校長



令和7年度まなびフェスト2025『温もりと輝きのある学校』—主体的に活動する高田一中生— 年度末評価結果

陸前高田市立高田第一中学校

校訓 明朗 自主 創造
教育目標

【知】
賢く

【徳】
優しく

【体】
逞しく

評価項目		R7 目標	比較	年度末評価					
				(A+B) %	A	B	C	D	
知	学校	将来の夢や目標を持っている生徒の割合	75%	↗	90%	63	27	8	2
		「授業の内容が分かる」と応えた生徒の割合	70%	↗	89%	97	58	39	3
	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている生徒の割合	60%	↗	90%	66	29	4	0	
	話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりしている生徒の割合	A50%	↗	66%	71	27	2	0	
	話し合い活動や発表の場面では、自分の考えをわかりやすく伝えようとしている生徒の割合	A50%	↗	76%	79	19	2	0	
	自分の住む地域には良いところがあると思っている生徒の割合	90%	↗	98%	76	24	1	0	
	学校や地域が行う体験活動に参加し、達成したよさこびややりがいを感じている生徒の割合	90%	↗	99%					
<p>*「授業の内容が分かる」生徒の割合は、目標の70%を全ての教科において超えており、特に数学と英語のAの割合が上半期に比べて10%程度高くなっている。しかし、個別の状況を見ると依然と「分からない」と訴えている生徒も一定数おり、単元ゴールに向けてメタ認知を踏まえて自らの学びをデザインしていく能力を高めていく手立てを構築していきたい。</p> <p>*「学習した内容について、わかった点や分からなかった点を見直し、次の学習につなげている」生徒の割合について、10月実施の県学質調査の85%から5%向上している。今年度の学校経営上の最重要課題に「学習習慣の確立」を掲げており、各教科担任が授業と家庭学習のリンクを模索しながら、「何を・どのように・どれくらい」すればいいのか学び方を丁寧に指導・評価しつつ、非認知能力の重要性も鑑みながら学びに向かう力の改善に努めてきた成果が現れている。次年度も、家庭での生活リズム（リ九高ルール）との関連も踏まえつつ、学校教育目標に掲げる「自主的な学び」を定着させるため、家庭との一層の連携強化を図りながら取り組んでいきたい。</p> <p>*地域の人的・物的資源を活用した教育課程内外の体験活動を推進したり、ボランティア活動による地域貢献活動を重ねてきたことにより、「学校や地域が行う体験活動では、達成した喜びややりがいなどを感じることができた」や「自分の住む地域には良いところがある」と答える生徒の割合が年間を通して非常に高い状態を維持できた。次年度に向け、地域ニーズを踏まえた復興教育計画のリニューアルを進めるとともに、生徒会企画による教育相談の推進しながら更に地域との協働活動を継続・発展させていく。</p>									
徳	学校	「学校に行くのは楽しい」と思っている生徒の割合	90%	↗	95%	71	24	4	2
		自己肯定感をもっている生徒（自分には良いところがあると思っている生徒）の割合	80%	↗	92%	51	41	6	2
		人が困っているときは、進んで助けようと思う生徒の割合	95%	↗	99%	80	19	1	0
		いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う生徒の割合	100%	↘	99%	93	6	1	0
		多様な意見を認め合うことに価値を感じている（自分と違う意見について考えるのは楽しいと思っている）生徒の割合	80%	↗	91%	59	32	8	1
<p>*本校教職員があらゆる場面で生徒個々の良い点を認めつつ個々の可能性を引き出そうと対応しており、上半期評価と比較しても生徒自身の自己肯定感のA（積極肯定）割合が約10%高まっている。学校生活のあらゆる機会を捉えて、生徒指導の三機能（自己存在感・共感的理解・自己決定）を活かした自己指導能力の育成に努めてきた成果である。また、「自分には良いところがあると思う」生徒の割合が90%を超えたことも大きい成果である。</p> <p>*諸活動の中で他者との関わり方を身に付け、人権を尊重することができる状況であり、いじめ問題も多くはなかった。特に道徳教育が各学年においてしっかり実践されていることと、生徒会が主体となっていじめ問題や「リ九高ルール」等について考える取組実践が、いじめを生まない学校風土を創るうえで効果が大きかったと言える。また、いじめ問題の未然防止や早期発見の年間計画に基づいた取組と、全教職員による教育相談体制の強化も有効だった。</p>									
体	学校	体力・運動能力調査の総合評価（5段階評価A～E）で、A・B・C段階の生徒の割合	80%	↗	83%	男子 81.3% 女子 85.1%			
		肥満傾向生徒の割合（1月身体測定結果）	10%以内	↘	15%	男子 17.1% 女子 12.8%			
		先生や周りの人は、自分の良いところ認めてくれていると思う生徒の割合	90%	↗	96%	61	35	3	1
	家庭と協働	う歯のない生徒及びう歯治療完了生徒の割合（冬休み終了時点）	80%	↗	86%	う歯なし 97名 処置完了 34名 治療未完了 21名			
		スマートフォンやインターネットを使うときは、危険に巻き込まれる可能性があることを理解している生徒の割合	100%	↗	100%	96	4	0	0
<p>*「体力・運動能力の向上」については、継続的な「60運動」の取組により一定の成果があった。数値目標と比べると、2年生男女と3年生男子が85%を超えている。逆に1年生男子が71%と低く、小学校時代における運動経験の未熟さが原因と思われる。肥満傾向も1年生男子と3年生女子が課題である。肥満予防対策の一つとして、昨年度からのスポーツ医・科学サポート事業によるトレーニングや食育を含めた講習会を実施しているが、明らかに生徒及び教職の意識が高まっており、今後も継続していきたい。</p> <p>*齲歯の治療率は、冬休み中における治療が進み目標の80%を大幅にクリアしており良好な結果となった。また、齲歯なしの割合が63%と非常に多く、学校はもとより家庭での幼少期からの取組の成果が大きい。しかし、歯科健診での有視見者が3割と多くなっており、学年が上がるほどその割合が高い。教育相談については、発達支持的生徒指導を充実させるための教育相談体制を全教職員の共通理解のもと構築できた。保護者との連携も密に行われ、専門機関を含め組織的に推進することができた。</p> <p>*スマホの使用については、生徒たちは情報モラルに対する知識は持っているものの、日常的に長時間にわたる使用で生活リズムを崩したり、友人とのSNS等のやりとりが原因で人間関係に問題が生じるケースが依然と見られる。1月末の県学質調査から、全校生徒の61%が1日当たり2時間以上携帯電話やスマートフォンを使用していることが判明した。3時間以上の使用者も20%いる。家庭ルールの徹底を粘り強く家庭への協力を求めていくことと、スマポ・インターネットが絡む生徒指導上の問題が発生した場合には、直ちに警察に対応を依頼しながら毅然と問題解決に向けて進めていくことを、繰り返し生徒に周知していく。</p>									

令和7年度 学校評価結果（本校職員による学校経営に係る自己評価）

陸前高田市立高田第一中学校

1 学校教育目標について

A：達成できた、B：ほぼ達成できた、C：あまり達成できなかった、D：達成できなかった

評価項目	前期評価 (9月末)	肯定的評価の割合 年度末(1月末)	A		B		C		D		課題 クリア	
			%	人数	%	人数	%	人数	%	人数		
学び【知】 を鍛える	1 自ら学ぶ意欲・態度の育成に努めている	93.3	100.0	26.7	4	73.3	11	0.0	0	0.0	0	◎
	2 「わかる授業」づくりに努めている	100.0	100.0	13.3	2	86.7	13	0.0	0	0.0	0	◎
	3 各種調査結果による学力の実態把握と活用に努めている	100.0	100.0	6.7	1	93.3	14	0.0	0	0.0	0	◎
	4 特別支援教育の充実努めている	80.0	64.3	7.1	1	57.1	8	35.7	5	0.0	0	▼
心【徳】 を鍛える	5 道徳教育の充実努めている	100.0	100.0	46.7	7	53.3	8	0.0	0	0.0	0	◎
	6 体験活動の充実努めている	93.3	100.0	60.0	9	40.0	6	0.0	0	0.0	0	◎
	7 発達支持的生徒指導の充実努めている	86.7	86.7	26.7	4	60.0	9	13.3	2	0.0	0	○
	8 学校不適応対策の充実努めている	86.7	73.3	13.3	2	60.0	9	26.7	4	0.0	0	▼
体【体】 を鍛える	9 体力・運動能力の向上に努めている	100.0	93.3	46.7	7	46.7	7	6.7	1	0.0	0	◎
	10 歯の健康教育の推進に努めている	93.3	93.3	40.0	6	53.3	8	6.7	1	0.0	0	◎
	11 肥満予防と対策に努めている	93.3	73.3	20.0	3	53.3	8	26.7	4	0.0	0	▼
	12 現代的な健康課題への対応に努めている	93.3	93.3	46.7	7	46.7	7	6.7	1	0.0	0	◎

2 学校経営の重点項目について

A：達成できた、B：ほぼ達成できた、C：あまり達成できなかった、D：達成できなかった

評価項目	前期評価 9月末	肯定的評価の割合 年度末(1月末)	A		B		C		D		課題 クリア	
			%	人数	%	人数	%	人数	%	人数		
生徒の 学力向上	1 学習活動、学校行事等において、主体的かつ諦めずやり抜く態度の育成に努めている	93.3	100.0	40.0	6	60.0	9	0.0	0	0.0	0	◎
	2 授業では明確なゴールの姿を共有し、学習規律の確立と学び方の指導に努めている	100.0	100.0	60.0	9	40.0	6	0.0	0	0.0	0	◎
	3 教科担任が授業と家庭学習の一体化を図り、确实且つ適切に評価している	100.0	93.3	26.7	4	66.7	10	6.7	1	0.0	0	◎
	4 「いわての授業づくりの3つの視点」のうち、特に「学習の振り返り」の工夫・改善による授業設計を積み重ねている	100.0	93.3	46.7	7	46.7	7	6.7	1	0.0	0	◎
	5 「確かな学力育成プラン」の重点である「目的や場面、状況に応じて、自分の考えをわかりやすく表現する力」の育成に努めている	93.3	100.0	46.7	7	53.3	8	0.0	0	0.0	0	◎
	6 ICT活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の推進に努めている	93.3	80.0	20.0	3	60.0	9	20.0	3	0.0	0	○
	7 学級文庫、「まもるくんノート」等を活用し、朝読書活動の充実努めている	100.0	100.0	46.7	7	53.3	8	0.0	0	0.0	0	◎
	8 各種検定に積極的に挑戦するよう指導している	100.0	86.7	46.7	7	40.0	6	13.3	2	0.0	0	○
豊かな 心の育成	9 生徒の心を揺さぶる道徳教育を展開するなど、実態に即した多様な活動をとおして、思いやりや感謝の心を育てる	93.3	100.0	33.3	5	66.7	10	0.0	0	0.0	0	◎
	10 総合的な時間における目標、または内容の更新を図り、体験活動の充実努めている	100.0	100.0	53.3	8	46.7	7	0.0	0	0.0	0	◎
	11 生徒指導の三機能（自己存在感、共感的理解、自己決定の場）を生かして自己指導能力の育成に努めている	100.0	93.3	46.7	7	46.7	7	6.7	1	0.0	0	◎
	12 いじめの未然防止・早期発見に努めるとともに、いじめを許さない学級・学年経営に努めている	100.0	100.0	46.7	7	53.3	8	0.0	0	0.0	0	◎
	13 学校不適応の未然防止・早期発見・早期対応のための組織的指導体制の構築と、関係機関と連携を強化しながら教育相談の充実努めている	100.0	100.0	40.0	6	60.0	9	0.0	0	0.0	0	◎
健やかな 体の育成	14 生徒の体力向上に努めている	100.0	93.3	40.0	6	53.3	8	6.7	1	0.0	0	◎
	15 歯の健康教育を推進し、歯の治療率の向上に努めている	86.7	93.3	33.3	5	60.0	9	6.7	1	0.0	0	◎
	16 食育講座や食育個別相談を実施し、肥満傾向の生徒割合の低下に努めている	93.3	73.3	40.0	6	33.3	5	26.7	4	0.0	0	▼
	17 薬物乱用防止教室や思春期講座を実施、現代的な健康課題の未然防止に努めている	86.7	93.3	53.3	8	40.0	6	6.7	1	0.0	0	◎
キャリア	18 キャリア教育を充実させ、生徒一人ひとりの「総合生活力」と「人生設計力」の育成に努めている	100.0	93.3	40.0	6	53.3	8	6.7	1	0.0	0	◎
育【特別 支援教 育】	19 「個別的教育支援計画」を活用し、入学から卒業までの一貫した教育支援を行っている	80.0	86.7	33.3	5	53.3	8	13.3	2	0.0	0	○
	20 「個別の指導計画」を作成し、それに基づいた指導・支援を行っている	86.7	93.3	40.0	6	53.3	8	6.7	1	0.0	0	◎
	21 全教職員が特別支援教育に関する研修を受講し、校内教育支援体制の整備に努めている	60.0	66.7	6.7	1	60.0	9	33.3	5	0.0	0	▼
復興教育	22 「いわて復興教育」プログラムと本校の「つなぐプロジェクト」との関連を再構築した教育活動の推進に努めている	100.0	93.3	66.7	10	26.7	4	6.7	1	0.0	0	◎
	23 「いわての復興教育」副読本・「まもるくんノート」の積極的活用努めている（総合的な学習の時間、道徳、特別活動の時間等）	93.3	93.3	73.3	11	20.0	3	6.7	1	0.0	0	◎
制【危機 管理体 制】	24 学校安全計画の周知や徹底に努めている	93.3	100.0	73.3	11	26.7	4	0.0	0	0.0	0	◎
	25 校舎施設の適切な管理と定期点検に努めている	100.0	100.0	80.0	12	20.0	3	0.0	0	0.0	0	◎
	26 最新の教急対応に係る校内研修の実施や、各々の対応に関するガイドラインの周知徹底に努めている	86.7	100.0	46.7	7	53.3	8	0.0	0	0.0	0	◎
と【家庭 ・地域 協働】	27 家庭や地域の声を踏まえた教育活動の推進に努めている	100.0	93.3	60.0	9	33.3	5	6.7	1	0.0	0	◎
	28 校報や各種通信等により、学校内外の教育活動の様子等について情報発信に努めている	100.0	93.3	46.7	7	46.7	7	6.7	1	0.0	0	◎
	29 地域人材・資源を活用した体験学習の推進に努めている	100.0	100.0	66.7	10	33.3	5	0.0	0	0.0	0	◎
働【働き 方改 革】	30 最終退勤時刻20時を設定し、無制限・無限定の勤務廃止に努めている	66.7	66.7	13.3	2	53.3	8	20.0	3	13.3	2	▼
	31 校内における業務内容の見直しや組織チームワークの向上、効率化、質を下げない取組に努めている	86.7	93.3	53.3	8	40.0	6	6.7	1	0.0	0	◎
	32 週末における部活動の地域移行を進めている	53.3	86.7	20.0	3	66.7	10	0.0	0	13.3	2	○
	33 部活動休養日を適切に確保している	100.0	100.0	86.7	13	13.3	2	0.0	0	0.0	0	◎

学力向上・特別支援教育の充実・心のサポート体制の充実・肥満予防対策を次年度の改善課題とします！